

【エクアドル内政・外交：2011年2月】

1. 概要

- 2月 5日 コレア大統領、南極訪問
- 8日 国会敷地内への非常事態宣言延長
- 14日 潘基文・国連事務総長、当国訪問
- 17日 ヤスニ ITT プロジェクトに関する活動報告
- 23日 リビア情勢に対する憂慮を表明

2. 内政

(1)先住民族指導者の逮捕と釈放

1日、国家警察特殊展開部隊(GOE)はモロナサンティアゴ県地裁による逮捕状に基づき、アカチヨ(Jose Acacho)シュアル族前代表、マシアン(Pedro Mashian)市議、カニラス氏(Fidel Kaniras)の3名を、2009年9月30日の水資源法案に対する抗議活動に於いてウスマ氏(Bosco Wisuma)が死亡し、40名の警察官が負傷した事件に関与したとして、テロ行為及び破壊活動の罪で身柄を拘束した。同日夜、右3名の身柄はマカス市から首都キト市にある拘置所(CDP)に移送された。

8日、ピチンチャ県地裁第二法廷はアカチヨ・シュアル族前代表、マシアン市議、カニラスの3名を、弁護人が4日に提出した人身保護令状(habeas corpus)請求に基づき釈放処分を下した。右3名はテロ行為及び破壊活動の罪で身柄を拘束され、8日間ほど勾留されていた。

(2)国会敷地内への非常事態宣言延長

8日、国会敷地内への非常事態宣言を延長する大統領令第647号が発出された。非常事態宣言期限は署名日から60日間。

3. 外交

(1)国連関係

14日、潘基文・国連事務総長はエクアドルを公式訪問した。エクアドルの民主体制及びコレア政府に対する国連の支持を表明した。事務総長は「エクアドルは現大統領が就任した4年前より政情が安定している。エクアドルは未だ9月30日事件から回復の途にある。当日、自分は民主的体制と選挙で選ばれた政府への支持を表明した。いま自分はエクアドル国民に支持を示すため訪問した。就任以来、政情安定をもたらしたコレア大統領に敬意を表する。」と述べた。

(2)ヤスニ ITT プロジェクト

17日、エスピノサ遺産調整大臣はエクアドル外務省に於いて、「ヤスニ ITT プロジェクトに関する活動報告(Rendicion de cuentas de la Iniciativa Yasuni-ITT)」を行った。

(3)対チリ関係

5日、コレア大統領は南極をピニェーラ・チリ大統領と訪問した。ペドロ・ビセンテ・マルドナード基地(エクアドル領)を訪問し、建設された研究施設の開所式に出席した。新施設には4つの研究室や化石の標本等が設けられた。右訪問にはパティエーニョ外務大臣、バルデオン高等教育科学技術庁長官が同行した。

(4) 対リビア関係

23 日、エクアドル外務省はリビア情勢に対する憂慮を表明する声明、「エクアドル政府はリビアで起こっている事態に憂慮を持って注視するとともに人命を奪う暴力の前に悲嘆を表明する。慎重さ対話を通じて暴力を直ちに中止し、リビア市民の人権尊重を期待する。また、今までにこの危機で人命が失われたことを遺憾とする。」と発表した。